令和3年度　学校運営等に関する評価書

学校名	和歌山市立四箇郷小学校
提出締切	令和4年3月11日

1　教育目標

心身ともにたくましく、豊かな人間性を身につけ、自ら学ぶ子供を育てる

2　学校自己評価についてのご意見

	地域とともにある学校	豊かな心	確かな学力	健やかな体と安全の確保
指標	学校評価アンケート項目「学校は，学校の教育活動や子供の様子を保護者にわかりやすく伝えている」において、『思う方』の回答が75%を超える。	・図書室への総来室者数⇒前年度を維持 ・保護者アンケートで学校教育・生活でのルールやマナー，モラルに関する設問にて，前年度より「わからない」という回答を減らす。	県学習到達度調査の結果が県の平均を上回る。	学校評価アンケート項目「学校は，子供の安全確保・健康管理のための取組を十分行っている」において『思う方』の回答が85%を超える。
重点目標に対する意見	・地域の方々との交流をもつ。 ・学校だよりでは子供の未来に向けての取組や学校での様子が分かりやすい。 ・学校だよりでは、校長の思いや願いが記載されており、保護者への関心・理解・協力につながっている。 ・あいさつの慣行 ・上記指標では85⇒75%と10%も下がる傾向にあるが、これはコロナの影響が大きいと感じる。	・毎日15分程度読書をする時間を確保する。 ・本に興味のない子が多い。 ・道徳教育は大人になるために必要不可欠。 ・1回説明しただけでは定着しない道徳教育、体験活動を増やしつつ、各教科や学級活動に指導を取り入れるタイミングを増やす必要がある。 ・「生きる力」生涯学習の基礎的な資質・能力を育成する場を増やすべき。	・先生と児童が何事についても相談できる環境作りをする。 ・日頃から目標をもち、計画的に学習していくことが大切。 ・記述式の正答率が低いため、国語では論理的な文章を読む力が必要。読書と読解は違う。算数では思考力の向上が必要。 ・判断力・表現力が身についていない児童やキレル児童が目立つ。	・見守り隊の人数を増やす。 ・交通量の多い所の安全確保が必要。 ・85%と高い評価とともに関心のある家庭が多いと感じた。残り15%の保護者の意見も聞いてみたい。
取組状況に対する意見	・地域の方々と年に何度かゲームや話をする機会を持つ。 ・学校のホームページを見てもらえるような工夫が必要。 ・先生方の積極的なあいさつの取組。 ・学校ホームページは定期的な投稿にすべき。 ・学級だよりでは、担任の思いや願い、クラスの取組などを記載し、書面で保護者に伝える工夫が必要。	・保護者だけでなく、行事によっては地域の人材をボランティアとして募る。 ・道徳教育を通して、思考力・表現力を向上させる。 ・色々な体験活動が必要。 ・情報化社会で生きていくために「影」の部分に対しても正しい理解とその対処方法について身に付けさせたい。よりよいコミュニケーションや人間関係づくりにICTを取り入れ育成していくべき。	・先生、学年関係なしにコミュニケーションをとれるような学校にする。 ・勉強が楽しい、またやりたいと思える仕掛けが必要。 ・解き方を教えるのではなく、考え方が身につく授業展開であった。 ・「インプット」「アウトプット」の強化は必要である。	・今以上に感染防止対策を行う。 ・地域の方々の指導もあり、安全確保できている。 ・子供の登下校の安全対策「ゾーン30」の設定。 ・コロナ対策への取組 ・机・椅子の老朽化 ・教室の整理整頓が必要 ・学校は死角も少なくなり環境が整ってきている。 ・感染対策にマンネリ化がみられる。
取組の適切さの検証結果に対する意見	・コロナに関していち早く情報を伝えて欲しい。 ・父親の目線では学校の様子が分かりにくい。情報発信が必要。 ・リモート授業では「見える化」の工夫がされていた。 ・リモート授業を通し、教室の様子を知ることができた。学習への遅れの心配も減り、保護者にとってリモートに切り替えやすかった。	・図書室へ入室しやすい環境作りをする。 ・人と人との繋がりがいかに大切か教えていく必要がある。 ・学校として情報教育の年間指導計画に情報モラルの指導項目をはっきりと位置付ける工夫が必要である。	・基礎学力向上に向け学校で内容を検討・統一したことはよかった。 ・教員が情報共有することで子供の基礎学力を高めていく。 ・授業研究会を開き外部の教師を招くことで、授業の取組に工夫が凝らされ雰囲気の向上にもつながっていた。また、教室や学校全体が整理整頓され、大きな変化を感じた。	・コロナ対策として、マスク、手洗い、アルコール消毒を今以上に徹底する。 ・地域・保護者の意見を募り、危険個所の把握をする必要がある。 ・児童机の天板や座面の取り換え。 ・各教室に消毒液を置く。 ・育生会では通学路の危険個所における注意喚起のための看板を保護者や地域の方からの意見を参考に設置した。また、熱中症対策として大型扇風機も導入した。
次年度に向けての改善方法に対する意見	・コロナで実施できなかった行事を行う。 ・コロナ禍に負けない学校づくり、イベント開催の工夫が必要。 ・学校からの情報共有を育生会に速やかにする。 ・通常授業・リモート授業など子供達がどの場所からでも参加できるよう「学びの場」を確保する。 ・HPの更新、書面は定期的に行う。一斉メールは必要に応じて発信する。 ・育生会からも学校・地域・家庭との連携に努め、情報を共有していく。	・親子で体験できる活動を取り入れていく。いろいろな人の話を聞き意見交換をする。 ・情報化社会に関わる教材を生かした話合い活動を充実させる。 ・ICTを活用し、何らかの疑似体験を授業の一部に取り入れていく。 ・豊かな体験活動を増やし、後に子供自らが振り返って成長を感じられるようにする。 ・体験活動を増やすことで子供だけでなく保護者へも関心を向けさせるようにする。	・放課後フォローアップ事業の対象学年を拡大する。 ・日頃からの勉強への定着、関心が大切。毎日少しずつノルマをクリアーしていくことが大切。 ・授業研究会やリモート授業など、学校全体が活性化しているため今後も継続しつつ指導力の向上につなげていただきたい。 ・四箇郷の子供達の個性を生かす教育を目標に、それを育むための環境を整えていってほしい。	・児童の安全を守るため、保護者、地域、教員で協力していく。 ・交通危険場所に目印、警告看板などを設置する。地域の見守りが必要。 ・令和2年度評価にある子供を守る会の意見交換は行ったのか。 ・育生会では引き続き危険個所の調査を行い、注意喚起を継続していく。

3　その他のご意見

・コロナ禍で学校行事ができていない中、色々な意見・アイデアを出し、少しでも子供達のために行事を進めていくようにする。
・毎年同じメンバー構成ではマンネリ化し、新しい発想や意見が生まれにくい。自治会長を広く委員に迎える、同じ役職でも別の人と交代するなど、この地域全体から子供達に関わる情報を伺うべき。
・今後もコロナ対策を十分に行う。